

第48回東海中学校総合体育大会軟式野球大会

1 期 日

令和8年 8月 6日（木） 午前 7時15分 監督者会議
午前 8時30分 競技開始 草薙総合運動野球球場
午前 8時30分 競技開始 ちゅ〜るスタジアム清水
8月 7日（金） 午前 8時30分 競技開始 草薙総合運動野球球場
8月 8日（土） 第三代表決定戦・決勝（草薙総合運動野球球場）

2 会 場

草薙総合運動野球球場
〒422-8008 静岡県静岡市駿河区栗原19-19-1
ちゅ〜るスタジアム清水
〒424-0114 静岡県静岡市清水区庵原町3000

3 参加チーム

各県2チームで、計8チームとする。

4 チーム編成

監督1名、選手18名以内（スコアラーを含む）とする。コーチが必要な場合は
その他に2名まで追加することができる。
校長はこれ以外にベンチに入ることができる。

5 競技規則

- （1） 2026年公認野球規則、競技者必携および大会特別規定による。
- （2） 大会特別規定は別に定める。
- （3） 使用球は（公財）全日本軟式野球連盟公認球M号とする。
- （4） その他の使用器具は、（公財）全日本軟式野球連盟公認のものとする。
- （5） 投手は1日に100球まで（達したときの打者まで）を限度とする。

6 競技方法

- （1） 全試合トーナメント方式とし、各試合は7回戦とする。
- （2） 得点差（5回以後7点差）によるコールドゲームは適用する。（決勝戦も含む）
- （3） 延長戦はなしとし、勝敗が決しない場合はタイブレーク方式とし、勝敗が決するまで行う。

7 参加校の選出方法

各県中学校総合体育大会（県大会）を予選とし、上位2チームを選出する。

8 参加資格

第48回東海中学校総合体育大会要項9項による。

9 参加料

第48回東海中学校総合体育大会要項10項による。

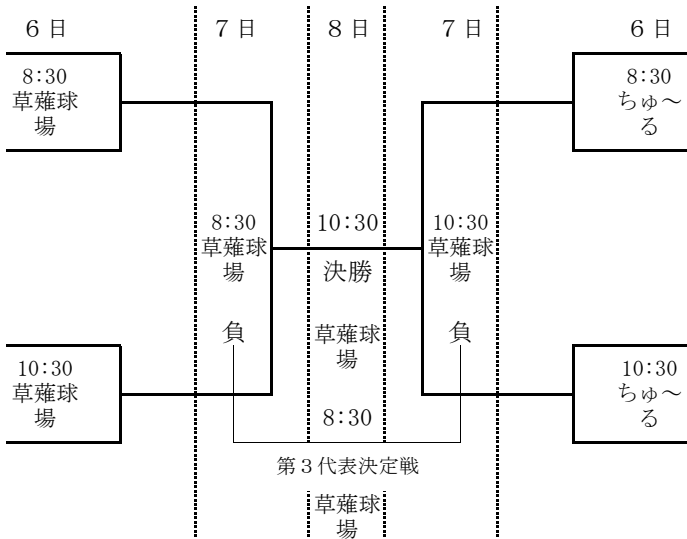
10 表彰

第48回東海中学校総合体育大会実施要項第11項による。11 申込方法

第48回東海中学校総合体育大会要項12項による。

12 組合せ

令和8年度は規約・大会基準要項の組合せ方法による。



13 その他

- (1) 本大会で1位・2位および第3代表決定戦の勝者は、東海代表として島根県で行われる全国中学校体育大会への出場権を得る。
- (2) 大会当日雨天等で試合不可能な場合は、各県専門委員長を通して出場校の関係者に連絡する。

大会特別規定

【競技を行うにあたって】

1. チーム9名からの参加を認める。
2. 正式試合は、通常7イニングから成る。得点差によるコールドゲームは5回以降7点差以上の場合に適用する。また、試合時間の制限は行わない。
3. 7回を完了して同点の場合は、タイブレーク方式とする（勝敗が決するまで継続する）。延長戦は行わない。

＜タイブレーク方式＞

継続打順で、前回の最終打者を一塁走者とし、二塁の走者は順次前の打者とする。すなわち、0アウト1・2塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は、さらに継続打順で得点差が生じるまでこれを繰り返す。なお、規定によって認められる選手の交代は許される。

4. 試合の成立は、5回以後とする。不成立の場合は、継続試合とする。
5回以降同点の場合に暗黒・降雨その他の事情で継続不能となった場合も継続試合とする。
(別記参照)
5. 天候等による大会実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定する。その際、会場を変更したり、ナイターで試合を行ったりする場合がある。
6. 大会中止時に全国中学校体育大会への代表（順位を含む）が決定していない場合は、中止の時点で残っているチームによる抽選で決定することを原則とする。なお、大会が実施できない、もしくは1回戦途中で中止と判断された場合は、各県の1位チームで抽選して決定する。

【試合開始前】

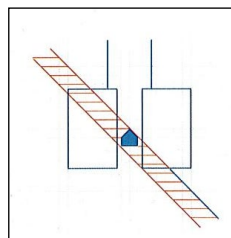
7. 監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻60分前までに球場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になっても到着せず、何ら連絡がない場合には棄権とみなす。交通事情による到着遅延については、大会本部で協議し決定する。
8. 打順表の提出は、その日の第1試合は試合開始予定時刻の40分前まで、第2試合以降は前の試合の4回終了までとする。監督と主将は打順表を6部持参し、登録原簿と照合ののち、前の試合の4回終了時に球審立ち会いのもと攻守を決定する。
9. ベンチは抽選番号の若い方を1塁側とする。
10. シートノックについては以下の通りとする。
 - (1) 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わった場合はこの限りではない。
 - (2) 時間は5分以内とする。状況によっては短縮または省略することもある。
 - (3) 監督・コーチ・登録選手の他に、3名の補助員（当該チーム選手）をつけて行うことができる。ノッカーは選手と同一のユニフォームを着用する。
 - (4) 相手チームがシートノックをしている時はベンチから出ない。ただし、先発投手のブルペンでの投球練習は認める。
 - (5) マウンドは使用しない（投手が守備練習を行う際もマウンドは使用しない）。
 - (6) シートノックを希望しないチームは攻守決定時に本部に伝える。
11. ベンチ入れ替わり時、シートノックの準備ができるまでの時間に、ベンチ前でキャッチボールや素振り、準備運動をすることは認める。ただし、危険防止のため間隔を十分にとって行う。
12. 第2試合以降の先発投手の投球練習は、攻守決定後、競技場内のブルペンを使用することができる。
13. 試合開始予定時刻前でも、前の試合が早く終了した場合、次の試合開始を早める場合がある。その場合、開始予定時刻より30分以上早めない。

【試合中】

14. ベンチ内での指示用メガホン使用は、監督に限る。また、電子機器類の使用は、電子スコア記録用としても認めない。
15. 使用するボールは、本部より提供されたボールを使用する。
16. 選手以外は、コーチスボックスに入ることができない。
17. 攻守交代のとき、投手またはプレートに最も近い野手が球を投手板近くに置くこと。
18. 試合中の球場内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。その際、投手の投球が始まったら、次打者席で素振りは行わない。ただし、低い姿勢で待つ必要はない。
19. 投手（救援投手も含む）の準備投球数は、初回に限り、7球以内（1分を限度）が許される。次回からは、3球以内とする。また、キャッチャーの装具準備時において2球を過ぎる場合、予備捕手は立って捕球する。捕手、予備捕手は安全のため、マスクをかぶり、カップを付けること。

20. 投手の投球制限
 投手は、球数を100球までとする。100球到達の打者まで投げられる。球数の計数は本部が行う。
 特別規則第2項 12秒及び20秒ルール
 投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受け取り打者に面した後、走者がいない場合には12秒以内、走者がいる場合には20秒以内に投球動作を開始しなければならない。違反した場合、球審はただちにボールを宣告する。なお、塁に牽制球を送球したときは、20秒の計測はリセットする。
21. 選手交代の申し出は、監督が行う。コーチは試合前のノックを行うとき以外は、ベンチから出ないものとする。
22. 審判員に対して規則適用上の疑義については、当事者と監督が直接、質問することができる。
23. 監督が投手のところに行く回数の制限について「投手のところに行く」とは、監督がタイムをとってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっているところで指示を与える状態を指す。伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合、投手の方からファールラインを越えて監督の指示を受けた場合も同じとする。
24. ボールデッドで改めてタイムをとる必要がない状態の時も「23」と同じ行為であれば回数に数える。
25. 走者のいるときに、投手が球を持たないで投手板のすぐそばに立ち、野手が隠し球の行為をしようとした時、明らかに相手チームが気づいている場合は即注意し、球を投手に戻させる。
26. 突発事故が起きた際、臨時代走が必要だと審判団が判断した場合は、臨時代走は投手、捕手を除く前打者とする。
27. 本塁打を打った打者に握手を求めるために、グラウンドに出てはいけない。
28. 危険防止のため次のことを徹底する。
 (1) マスコットバット、バットリング、鉄棒および公認球以外のボール等の球場への持込を禁止する。
 (2) 足を上げてのスライディングは禁止し、現実には妨害になった場合は走者をアウトにする。
 (3) 捕手はレガース・プロテクター・ヘルメット・スロートガード・ファウルカップを着用すること。
 (4) 打者、次打者と走者とランナーコーチは両耳付きヘルメットを必ず着用すること。また、リストバンド及びハイカットストッキングの使用を禁止する。
 (5) 規則6・01(i)（【原注】および【注】含む）（本塁での衝突プレイ）の適用について、『ボールを持たない捕手（野手）は下図の斜線部分に足を踏み入れて送球を待つことはできない』こととする。

【図】



29. 規則3・03原注〔前段〕「投手は、同一イニングで、投手以外の守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることもできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない」は適用しない。
 [規則適用上の解釈]
 中学校野球では、登録人員の関連で本規則を適用しないとしたものである。審判員は、これを作戦上の目的等、本来の趣旨からはなれて利用されることのないように留意されなければならない。
30. 交代して一度退いた選手は、ウォーミングアップなどの相手のほか、ベースコーチ、伝令も許される。
 (3・03注関連)
31. 監督が、投手のところへ行く回数の制限(8・06関連)
 (1) 監督が1試合に投手の所へ行ける回数は3回以内とする。なお、延長戦(特別延長戦も含む)は、2イニングに1回行くことができる。
 (2) 捕手を含む内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数を、3回以内とする。そこへ、監督が行けば双方一度として数える。なお、延長戦(タイブレーク方式も含む)となった場合は、1イニングに1回行くことができる。
 (3) 監督が、相手チームのタイム中、投手のところへ行くことは差し支えないが、プレイの再開を遅らせた場合は、投手のところへ一度行ったこととする。
32. 攻撃側のタイムの回数制限
 攻撃側のタイムは1試合に3回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式も含む)は、1イニングに1回とする。

33. 塁上の走者、およびコーチスボックスやベンチから、球種などを打者に知らせるためのサインを出すことを禁止する。

【試合後】

34. 試合終了後の挨拶は、ホームプレートをはさんですべて完了することとし、次の試合のために速やかにベンチをあけること。
35. 各チームの監督は、球場を去る前（試合終了30分以内）に大会本部に連絡をし、次の試合の日程などを確認する。

【その他】

36. 1チームの編成は、監督1名、選手18名以内(スコアラーを含む)とする。コーチが必要な場合はその他に教員（2名まで、ただし1名は外部可）を追加することができる。校長はこれ以外にベンチに入ることができる。
37. 同一チームの監督、コーチ、選手は、同色、同形のユニフォームを着用する。ただし、複数校合同チームのユニフォームは、それぞれの学校のものを使用してもよい。監督・コーチではない教員がベンチに入る場合は、平服（ワイシャツ・ネクタイまたは白いポロシャツ）に選手と同一の帽子とする。女性の場合もこれに準ずる。サングラスは使用しない。（平服の者は、緊急時対応（怪我等）以外はグラウンドに出ることができない）
38. 監督は、背番号30番をつける。コーチは29、28番をつける。
39. 選手がテーピングをする場合、露出する部分については肌色に近い色のものを用いる。投手は、投球時にボールに触れる部分と露出する部分については禁止する。
40. 選手はサングラスを原則使用しない。医療を目的としたサポーター等の使用は認めるが、強化目的の使用は認めない。
41. 登録選手に突発事故が生じ、登録選手を変更する場合は、自チームの初戦の前までに受付で登録選手変更願（中体連ホームページ）を添えて、申し出ること。
42. ボールボーイ、バットボーイ、シートノック時にノッカーにボールを渡す生徒（選手）は、いずれもヘルメットを着用する。
43. アップに関して
- （1）球場内でのアップ人数は以下のようにする。
登録メンバー（選手、監督、コーチ）と補助員3名のみ
 - （2）球場内アップの内容
ハーフ打撃、フリー打撃は禁止し、トスバッティングまでとする。
 - （3）球場内練習時の服装はユニフォームを原則とする。第1試合チームはメンバー交換まではチームで統一されたTシャツも可とする。（アンダーシャツのみは禁止）
 - （4）グラウンドに出る際は、必ず着帽する。
44. 試合中の控え選手のグラウンド内のアップはバッテリーを含む4名以内とする。キャッチボールのみ認める。（ランニングやダッシュ、ストレッチ、素振り、ゴロやフライ捕球も禁止）ただし、イニング間は上記のアップを試合の進行に妨げにならない範囲で許可する。
45. DH制は、採用しない。
46. 試合中の写真および動画をSNSやインターネットに投稿し、公開することを禁止する。

競技上の注意事項

1. 選手の頭髮や身なりは中学生らしく、試合中はもちろんのこと、試合後においてもスポーツマンらしい態度で大会に参加すること。
2. 応援団は次の事を守って応援すること。なお、応援団については、監督が責任をもつ。
- （1）応援はあくまで自チームの応援であって、野次など相手チーム選手が不快な思いをいただくような言動は禁止する。
 - （2）太鼓などの鳴り物やブラスバンドの応援は認めるが、自チームが攻撃をしている場面での応援とする。自チームが守備の時は、座っていることが望ましい。応援の切り替えは3アウト成立時とする。
 - （3）紙吹雪・テープ・個人名を書いたのぼり等を禁止する。
 - （4）相手チームをやじったり、相手チームに不利を招くような応援をしたりしない。
 - （5）応援席を散らかさず、ゴミは持ち帰り、美化に心がける。
 - （6）球場の設備を傷つけたり、試合を妨害したりするような応援はしない。
 - （7）メガホンを使用してもよい。
 - （8）笛(ホイッスル)は使用してもよいが、投手が投球動作に入ったら慎む。また、四死球やワイルドピッチ・パスボールなどの時に笛で盛り上げることをしないようにする。
 - （9）拡声器や音響機器の使用は禁止する。
 - （10）許可された場所以外にテントを張ることは禁止する。

3. 選手のユニフォームには、規定の大きさ（文字の大きさは、1文字縦20cm、横16cm、太さ4cm）の背番号をつける。背番号は一桁までは原則としてポジションを示す番号であり、全員が続き番号であること。
4. 試合進行や大会運営の円滑化のため、次のことに留意する。
 - (1) 打者席を外さない、サインは打者席から見る。
 - (2) 無用なタイムをとることを慎む。
 - (3) 先頭打者とランナーコーチは、ミーティングに参加せず、駆け足で位置につく。
 - (4) 出塁した際、バッティング手袋をベースコーチに渡さず、自分のユニフォームのポケットの中に入れておく。走塁用手袋に変えるためにタイムをかけ、試合の進行を遅らせてはならない。

別 記

① 後攻の勝ち

0	0	0	0	0
0	0	1	0	

② 後攻の勝ち

0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	1

③ 継続試合（教育的配慮）：6回の表、先攻が2点を入れてなおも攻撃中

0	0	0	0	0	2
0	0	0	0	1	

③ 継続試合：6回の表、先攻が1点をとって攻撃中

0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	

④ 継続試合

0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	

⑤ 継続試合：6回の裏、後攻が1点をとって攻撃中（投球数も継続試合）

0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	1

用具・装具規定 及び 運用規定

令和7年 愛知改定

【基本方針】（規定の目的）

1. 公正公平に競技する。
2. 用具による差異を無くし、平等な条件で競技する。
3. 安全面を考慮し、危険防止に努める。
4. 各学校や個人の経費負担が過大にならないようにする。
5. 学生野球（義務教育の一環）であることから、華美にならないようにする。
6. 高校野球への円滑な移行を図る。

【本規定の適用について】

1. 本規定は、東海競技部会で、追加、削除及び変更等を決定し、速やかに各県に通知する。
2. 本規定はその趣旨から、可能な限り各県の全大会において適用することが望ましい。
本連盟以外の主催大会では、主催者と協議し適用有無について確認する。
3. 本規定は内規として、競技部内の共通理解事項として位置付ける。

【補 則】

1. 本規定に対する問い合わせは、県専門委員を通して行う。
2. 本規定に記載されていない事項については、公認野球規則ならびに全日本軟式野球連盟競技者必携に従う。
3. オーダー製品の購入、使用は可能な限り控える（特別な事情を除く）。
4. 指導者は本規定の主旨を理解し、公平性と教育的側面を考え指導にあたる。

1. ボール

- (1) 使用するボールは（公財）全日本軟式野球連盟公認球M号とする。

2. バット

- (1) 木製バットは、黒色・ダークブラウン系、赤褐色系及び淡黄色系とし、木目を目視できるものとする。ただし、拙劣な塗装技術を用いていないものとする。
- (2) 金属・複合バットは、J・S・B・Bのマークをつけた、全日本野球連盟公認の「一般用」の表示のあるものとする。
- (3) バットの握りの部分については、市販のグリップテープを使用する。グリップテープが切れ明らかに止まっていないものは使用できない。
- (4) くぼみや亀裂の認められるものは使用できない。また、金属製バットのヘッドキャップや金属疲労、木製バットのひび割れなどを確認し、大会に持参する。

3. ユニフォーム

- (1) 同一チームの監督、コーチ、選手は、同色、同形のユニフォームを着用する。ただし、複数校合同チームのユニフォームは、それぞれの学校のものを使用してもよい。監督・コーチではない教員がベンチに入る場合は、平服（ワイシャツ・ネクタイまたは白いポロシャツ）に選手と同一の帽子とする。女性の場合もこれに準ずる。サングラスは使用しない。（平服の者は、緊急時対応（怪我等）以外はグラウンドに出ることができない）
- (2) 胸マークは校名、校章およびそれに準じるものとする。
- (3) 選手のユニフォームには、規定の大きさの背番号をつける。
- (4) 帽子、アンダーシャツ、ベルト、ストッキング、シューズもユニフォームの一部である。
- (5) ユニフォームの背中に個人名はつけない。
- (6) ノースリーブの上着は認めない。
- (7) ロングタイプ（裾を極端に絞った変形ズボン）や裾幅の広いストレートタイプのパンツ、ベルトレスパンツは使用できない。

- (8) ストッキングについて次の通りとする。
- ①危険防止のため、アンダーソックスとストッキングの両方を着用する。
 - ②ストッキングはアーチが見える形状とする。
 - ③ハイカットストッキングは禁止する。
- (9) 学生野球であることから、華美なものや高価なものは控える。
(切りかえしやラインの制限はない)
- (10) 左袖に都道府県名を必ず表示する。
- (11) アンダーシャツの首まわりの形状や袖の長さの規定はないが、左右の袖の長さが違う物は使用できない。
- (12) 背番号については以下の規定に従う。
- ①監督は背番号30番を付ける。コーチは29, 28番を付ける。
 - ②主将の背番号は指定しない。
 - ③欠番が出る場合は若い番号から登録する。
- (13) エナメル性のベルトは使用しない。
- (14) ユニフォームの着用にあたって次の点に注意する。
- ①背番号は、一桁までは原則としてポジションを示す番号であり、全員が続き番号であること。
 - ②見苦しくないように着用する。
 - ア) 上着の裾を出さず、たるませずベルトが見えるように着用する。
 - イ) パンツの裾はストッキングのふくらはぎの部分が見えるまで上げる。
 - ウ) 肩の部分をたくし上げない。
 - ③カラーソックスは認めない。
- (15) スコアラーの服装は、選手と同じユニフォームまたは在籍中学校の制服とする。

4. スパイク

- (1) スパイクのチーム内（指導者も含めて）での甲被カラーは、白または黒の一色（エナメル不可）とし、チーム内での混在を認める。ハイカットやミドルカットについての使用制限はしない。
- (2) ワンポイントの商標は同色とみなす。
- (3) 金具はポイント式を使用してもよい。

5. グラブ

- (1) 「綴じ紐」の長さが親指より長いものは使用しない。
- (2) 投手用のグラブ
- ・縁取り、縫い糸を除き白色・灰色以外のものが使用できる。
 - ・色がPANTONEの色基準14番よりも薄い色は使用できない。
 - ・縁取り、締め紐・縫い糸を除くグラブ本体（捕球面・背面・網「ウェブ」）は2色まで使用できる。また、そのグラブの色と異なった色のものを、グラブにつけていた場合は使用できない。
- (3) 野手のグラブに制限はない。
- (4) 捕球を容易にするための目的で、特殊な突起物や材質の違う物をグラブの表面に加工した形状の商品の使用は認めない。

6. ヘルメット

- (1) ヘルメットはSGマークがついたもので、チームとして、色やデザインは同一のものを着用する。
- (2) 亀裂のあるものや内側の保護パットがついていないものやパットが固定されていないものは使用できない。
- (3) 校名、校章、頭文字イニシャルを表示する。番号などの表示を認める。商標についての規定は設けない。

7. 捕手の装具

- (1) マスクは連盟公認のも(SGマーク)の使用し、必ずスロートガードを装着する。ただし、スロートガード一体型のマスクは装着しなくてもよい。
- (2) 公認のレガーズ及びプロテクター、SGマークのついた捕手用のヘルメットを装具する。
- (3) 膝痛軽減用パッドの使用を認める。色は黒または紺一色とする。

- (4) マスク・レガーズ・プロテクター及びヘルメットに亀裂や破損のあるものは使用できない。
- (5) 投球練習時の装具も(1) , (2) の規定に準ずる。(ブルペンも同様)
- (6) 急所(ファウル) カップを使用する。控え捕手も着用すること。

8. 手袋、リストバンド、サポーター

- (1) 打者・走者・守備時の野手の手袋の使用を認める。手袋とサポーターの一体型のものの使用も認める。リストバンドを兼ねたようなものは禁止し、手首から先のものとする。
- (2) 走者が出塁時に、一回り大きいサイズの走塁用手袋の使用はできない。
- (3) 色は白または黒色の単色のみとする。ワンポイントの商標は同色とみなす。
- (4) リストバンドは使用できない。
- (5) 医療目的でのサポーター(手首や指を固定・保護する目的の物)の使用は認める。ただし、色は白・黒・ベージュの一色のものとし、試合前に大会本部に申し出て許可を得る。
- (6) 投手が手首や腕にサポーターなどを使用することは禁止する。テーピングについても投球時にボールに触れる部分と露出する部分については禁止する。

9. その他の用具

- (1) 選手はサングラス、手甲ガード、レッグガード、エルボーガードは原則として使用しない。事情があり使用を希望する場合は、医療目的として大会本部に申し出て許可を得る。
- (2) 健康上の理由及び球場の条件によってサングラスの使用は認める。メガネ枠は黒、紺またはグレーなどとし、メーカー名はメガネ枠の本来の幅以内とする。ガラスの眉間部分へのメーカー名もメガネ枠の本来の幅以内とする。また、著しく反射するサングラスの使用は認めない。
- (3) スプレーの使用は手袋の摩耗が激しく、打者が優位になることがあるので禁止する。
- (4) マスコットバット、バットリング、鉄棒、公認球以外のボール等、試合で使用しないものの球場内への持ち込みは禁止する。
- (5) アームスリーブは医療目的に限り、サポーターに準じて使用を認める。ただし、アンダーシャツと同色とする。

※上記に記載のない内容は、野球規則ならびに全日本軟式野球連盟競技者必携に従う。